

計量魚探調査（10月）で観察された魚群数は、前年を上回る

稚内水試では、毎年10月と11月の2回、稚内ノース場海域（図1）において、試験調査船北洋丸による計量魚群探知機調査と着底トロール調査（原則6回曳網）を実施しています。

本速報では、2022年10月3～7日に実施した第1回調査の結果を示します。今年の調査では、荒天のため、計量魚探調査は「北側」と「中央」の2ラインのみ、着底トロール調査は、各海区にて1回（計3回）の実施となりました。

計量魚探調査およびトロール調査結果

- ・魚群の発見位置は、ほとんどが海区812に集中していました（図1）。
- ・魚群数は15で昨年を上回りました（図2）。
- ・トロール調査では、海区813で0歳ホッケが漁獲されました（図3）。一方で、海区811, 812では、ホッケの漁獲がほとんどありませんでした。

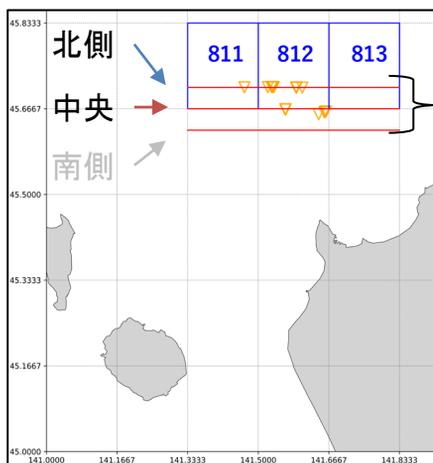


図1. 操業海域と調査ライン

（▽：魚群発見位置）

※荒天のため、「南側」は航走せず

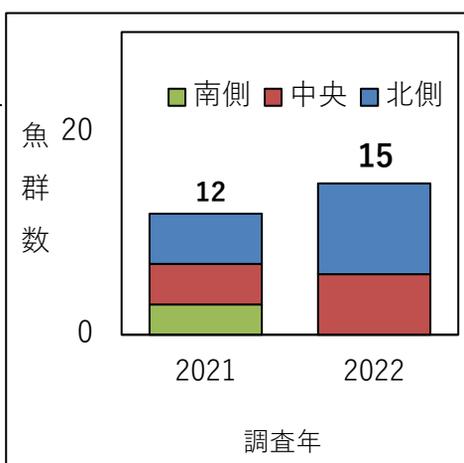


図2. 発見された魚群の合計

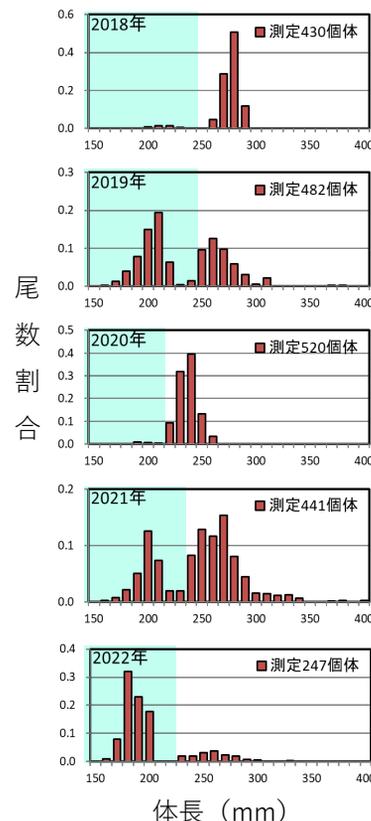


図3. 採集されたホッケの体長組成
（水色部分は0歳魚を示す）

調査結果

10月調査では、計量魚探調査において発見された魚群数（北側・中央の合計）が、昨年の合計を上回りました。ただし、近年1歳以上のホッケも多く漁獲されていることから、この魚群が「0歳のみで構成された魚群」といえるかは分かりません。今回は荒天のため計量魚探調査・トロール調査とも十分に実施できなかったため、2022年級群の豊度については、11月調査の結果と併せて総合的に判断する必要があります。